

# 令和元年度病虫害発生予報第6号

令和元年9月2日  
愛知県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量は平年並 主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量は平年並	± - ±
	紋枯病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量は平年並	+ ±
	トビイロウンカ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	+
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	コブノメイガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	+
	フタオビコヤガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 9月の気温は高い	± - +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +

### ・防除対策

#### [イネ・紋枯病]

8月2日発表の「イネ紋枯病情報第1号」を参照してください。

#### [イネ・トビイロウンカ]

本日発表の「令和元年度病虫害発生予察注意報第6号」を参照してください。

#### [イネ・コブノメイガ]

8月1日発表の「コブノメイガ情報第1号」を参照してください。

#### [ダイズ・オオタバコガ]

8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

### ・留意事項

斑点米カメムシ類の発生量は、水田内では平年並ですが、畦畔雑草ではやや多い状況です。また、予察灯における誘殺数は、おおむね平年並の状況です。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除しましょう。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	多い	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量はやや多い 8月下旬の被害果率は高い 黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± ± ±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並 台風10号により風を伴う降雨があった	± ± ±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ±
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数は平年並～やや多い 9月以降果樹園に飛来する個体が多くなると予測	±～± ±

### ・防除対策

#### [ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

コロマイト水和剤やダニゲッターフロアブルなどで防除しましょう。

#### [ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ]

防除適期である第6世代の成虫発生ピーク予測日を9月1日までの気象データを用いて計算したところ、名古屋及び大府8月29日、伊良湖9月2日、愛西および南知多、豊橋9月3日、蒲郡9月4日、岡崎9月5日、豊田9月6日、新城9月10日となりました。防除適期を迎えている地域では、スタークル/アルバリン顆粒水溶剤やディアナWDGなどで防除を実施しましょう。

#### [モモ・せん孔細菌病]

次作の越冬源量を減らすため、秋季防除を実施しましょう。詳細は、8月16日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参照してください。

#### [カキ・炭疽病]

本日発表の「カキ炭疽病情報第1号」を参照してください。

#### [果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「果樹カメムシ類情報第4号」を参照してください。

・留意事項

ブドウベと病による早期落葉および次作の越冬源量を減らすため、収穫後にI Cボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	前年11月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 9月の気温は高い	± + +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 9月の気温は高い	± +

・防除対策

〔キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ〕

キャベツ、ハクサイは育苗期後半や定植時に粒剤や灌注処理剤で、ダイコンは、は種時に粒剤などで防除しましょう。定植後はトルネードエースDFやディアナSCなどで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。キャベツ、ハクサイはアニキ乳剤やフェニックス顆粒水和剤などで、野菜類では、フローバックDFなどで防除しましょう。

〔野菜共通・シロイチモジヨトウ〕

キャベツは、8月2日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。野菜類では、デルフィン顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

・留意事項

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガなどが同時に発生している場合があります。どの害虫が発生しているかよく観察し、適用のある農薬で防除しましょう。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、育苗ほでハダニ類の発生量が多いほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、アフーム乳剤やモベントフロアブルなどで必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ±
	白さび病	やや多い	山間部	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量は平年並	+ ±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	平年並	県全域	8月下旬の発生量は少ない 9月の気温は高い	- +
	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 9月の気温は高い	- ± +

### ・防除対策

#### [キク・白さび病]

被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。チルト乳剤25やアミスター20フロアブルなど系統の異なる農薬でローテーション防除しましょう。

#### [キク・ハスモンヨトウ]

アニキ乳剤やフェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

### 参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方气象台 8月29日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い : 10% 平年並 : 30% 高い : 60%

[降水量] 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

[日照時間] 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%